

国立登山研修所 平成24年度安全登山普及指導者中央研修会報告

平成24年6月29日から7月1日の3日間において、立山駅から徒歩2分の国立登山研修所および周辺山城、雑穀谷岩場にて安全登山のための研修会が開催された。参加者は19歳から65歳までの46名であった。それぞれの各地域の所属団体での指導的立場の人や指導者を指す人たちである。ここでは、チームの実力に合った安全な登山を実践できる知識と技術の習得を目指している。研修で学ぶスキルを大きく二つのカテゴリーに分けた。一つは登山計画と読図(読図・プランニング)を主体に研修する7チーム(合計26名)で、もう一つは登攀のうち確保技術(登攀技術)を主体に研修する8チーム(合計20名)である。講師は17名、所長他2名と補助員2名が講義や実地研修を支えた。読図・プランニングのチームでは、1チームに講師1名、研修生3〜5名の割合で、登攀技術のチームについては講師1名に研修生2〜3名の割合で構成された。

2日目(6/30)天気晴れた。研修所から車で15分くらいのスキー場の上部の山城で実地研修された。登山道から外れて地形と地図との関係を探えながら、ピークや尾根や峠などのそれぞれのチームの予定コースを通った。沢にコースを取ったチームでは、胸まで水に浸かった者もいた。読図や精密な登山計画も不完全でなく、登山道しかこれまで歩いていない指導者が多く、登山道を外れると、歩行パランスが急に低下し、観察範囲も極端に狭くなる人が目立った。3日目(7/1)雨。前日の復習を兼ねて、幾つかのチームは、再び研修所周辺の山の尾根を主に研修した。高校山岳部の顧問の先生は生徒の指導のために、読図や引率の技術にも役立つ練習も行った。

29) 確保に関わるロープやカラビナなどの道具の特性や強度、制動確保の原理や原則を学び、普段から疑問に思っていることなども質疑応答して、具体的に研修した。夜は装備の携行の仕方やアンカールの基本などを体育館のウォールも利用して実習した。2日目(6/30)、研修所の16mの人工岩場と3mほどの小さな人工岩場や車で10分くらい確保のシステムや懸垂下降の原則について、特に事故しやすい技術の弱点について、繰り返し徹底した反復練習を行った。これまで頭で分かっていたつもりでも、間違った方法で確保していた人の技術も修正された。一方で、昔にやった技術にとらわれて、現在の道具の機能を十分に発揮するためのスキルに戸惑う人もいた。確保技術において、お互い大きな声で行うべきであるが、十分な声で行うべきであった。3日目(7/1)、前日の復習を兼ねて、幾つかのチームは再び雑穀谷でプロテクションと懸垂下降の練習を行った。研修所周辺の小さい人工岩場や体育館のウォールも利用され、復習を重ねた。

いづれも熱心に研修された。帰ったらすぐに、何度も繰り返して山で実施してほしい。伝達講習などという形式的なものではなく、生々しい山で実践すべきである。登山では予測とコントロールによって安全が確保される。多くの質の高い体験を山で重ね、自らの命と仲間を命を守りながら、ワクワクするような楽しい登山を続けてほしい。

(文責・主任講師 北村憲彦)

遭難対策委員会研修会兼総会

“自己責任”について討議する

遭難対策委員 鈴木康夫

6月23日(土)24日(日)茨城県つくばの「レイクサイドホテルつくば」に於いて、遭難対策委員会研修会と総会が開催され36名が出席しました。最初に報告事故として、三重県・藤原岳登山者遭難事故について、各県からの捜索協力について謝辞が述べられ、つづいて基調報告に入った。冒頭、遭難の西内委員長より24年度のメインテーマは「自己責任」という説明があり、つづいて青山副委員長より「自己責任を考える」太田山岳文化学会員より「登山における責任」等の基調報告があった。遭難活動において青山氏は「倫理、法律、規範」が重要であること。太田氏は「危険を引き受け」民法上の損害賠償について説明(1)故意又は過失である行為に基づくこと。(2)行為者に責任能力があること(年令的には11・12才)。(3)他人の権利を侵害しないこと。(4)損害が発生したこと)等について述べられた。研究討議では、3班に分かれて行われたが、「自主登山」が中心に議論された。以下、学生山岳部、社会人山岳会、社会人の同好山岳愛好会について考えた場合、連れて行ってもらおう。他方登山から自主登山の変化、行動が重要になってくる。登山する領域のクラミング技術、体力トレーニングや各種登山の講習会等を中心に山行で生かすかが肝要である。登山に際しては、事前にインターネットや山行してきた仲間から、山行予定領域の情報を集めることが大切である。(岩場、ガレ場、落石場所等の危険箇所、山道の変更、テント場や小屋の変更、またリーダーが作成する登山計画書に関しても、留守宅への連絡、計画書における装備や季節等の防寒対策、食料、山行時間、通信手段、エスケープルート、山行領域の変更有無等の事前確認する必要があることなどが再確認をした。「自主登山は自己救助・自己救済・自己責任」である。(やまびこ山想会)

平成24年度全国山岳遭難対策協議会

遭難事故の実態と救助活動の現状

副会長 中平等 新一

全国山岳遭難対策協議会が7月11日(土)文部科学省3階講堂で、全国から警察、消防、山岳等の関係者350人が出席して開催された。

10時から開会式が行われ、文部科学省スポーツ青少年局スポーツ振興課長・嶋倉剛氏が挨拶。つづいて報告が行われ、最初は「平成23年中の山岳遭難事故概況」を警察庁生活安全局地域課補佐・大林昌弘氏より発表(下表参照)され、特徴として22年度までは右肩上がりで増加していた事故が、23年度は若干の減少はみられたが、依然として中高年者の事故が多く、携帯電話による通信手段が65%占めていた。

次に「消防防災ヘリコプターによる山岳救助のあり方に関する検討会概要報告」を総務省防災課広域応援室航空専門官・森田壽彦氏が行い、航空消防体制の整備で事故時の共通性はホバリング(空中停止)をし、ホイスト(救出ワイヤー巻き上げ機)による救助を実施。この救助方法は山岳に限らず離着陸する場所がない場



合に多用される方法である。(総重量5トン迄しか飛べない)また、高所など酸素が薄くなると出力が落ちる。等の報告があった。

報告の最後は「山岳遭難救助に対する兵庫県を取り組みについて」兵庫県消防防災航空隊航空救助係長・東谷浩二氏が神戸消防防災航空隊の組織と救助活動の実態を発表し、今後は山岳連盟等との協力体制の確立を課題とした。

昼食、休憩をはさんで午後1時30分から講演が始められた。

まず「日本における国際認定山岳医制度について」日本登山医学会認定山岳医委員長・増山茂氏は「日本登山医学会認定山岳医」を養成しており、参加されている皆様に協力を呼びかけた。また「日本における国際認定山岳医制度について」英国国際山岳医の大城和恵氏が、山岳救助への医療導入について欧米の知見を紹介。日本でも医療導入が可能であるか、遭難現場での医療導入の取り組みを紹介された。

次に「那須山岳救助隊での遭難防止への取り組み」を那須山岳救助副隊長・渡部逸郎氏が行った。救助隊はボランテアで活動しているが高齢化している。那須岳遭難の特徴は2つあり、強風による気象遭難と入山する人の多さである。特に景色だけのつもりで観光客が、地図も持たずにそのまま登山をし、道迷いなどを起こす。

遭難を減らす取り組みとして、登山道の整備、道標整備、登山届けの推進を行っている。

以上で講演は終了し、つづいて「山岳遭難事故防止のために」の提案が、国立登山研修所長・渡邊雄二氏から発表され承認された。

最後に、日本山岳協会会長・神崎忠男氏が閉会の挨拶を述べ、16時30分閉会した。

＜山岳遭難発生状況の推移＞

平成23年中における山岳遭難は、

- 発生件数……………1, 830件 (前年対比-112件)
- 遭難者数……………2, 204人 (前年対比-192人)
- 死者・行方不明者…… 275人 (前年対比-19人)

である。

発生件数、遭難者数は、昭和36年以降、前年に次いで過去2番目に高い数字を示した。なお、平成23年中の発生状況を10年前の平成14年と比較すると、

- 発生件数……………+482件
- 遭難者数……………+573人
- 死者・行方不明者…+ 33人

とそれぞれ増加している。

【過去10年間の山岳遭難発生状況】

	H14	H15	H16	H17	H18	H19	H20	H21	H22	H23
発生件数	1,348	1,358	1,321	1,382	1,417	1,484	1,631	1,676	1,942	1,830
遭難者数	1,631	1,666	1,609	1,684	1,853	1,808	1,933	2,085	2,396	2,204
(死者・不明者)	242	230	267	273	278	259	281	317	294	275
(負傷者)	684	677	660	716	648	666	698	670	832	819
(無事救出等)	705	759	682	695	927	883	954	1,098	1,270	1,110

※「不明者」とは行方不明者を示し、「無事救出等」には自力下山を含む。

CLIMBING PARK 東三河初のクライミング施設


<http://climbing-park.com>

☎0532-26-3737

住所:愛知県豊橋市関原町138番地



モンタニア

住所 愛知県豊橋市萱町5番地 ☎0532-55-0125 <http://www.montania.jp>

ヒートナーから安心して選べる三河地区
のPROショップ

JR刈谷駅前



登山用品豊富!

穂高

〒448 刈谷市桜町1-13
TEL:0566(23)8611
定休日/火曜日
営業時間/10:00~20:00

名古屋・伏見 長者町の山用品専門店



ステラルピーナ

(旧シャツバーム)

名古屋市中区錦二丁目5-31 長者町相互ビル2F ☎052-231-0739

営業時間/11:00~8:30pm(日曜日は7:00pm迄)

Renopoint

<http://www.renopoint.jp>

Original Wear & Goods

オリジナルウェア・CMウェア (広告掲載)

カジュアルユニフォーム&グッズ

デザイン・企画・制作

お気軽にお問合せ下さい。

特許出願 GLASS PERCH(グラスパーチ)

株式会社リノポイント 〒491-0835 愛知県一宮市あずら1-5-7
TEL:0586-58-5021 FAX:0586-58-5022 E-mail:ito@renopoint.jp

名古屋駅前の山とスキーの専門店

駅前アルプス

〒450-0002 名古屋市中村区名駅四丁目11-27
(第2トヨタビル東館1F)

TEL 052-565-1417

うなぎ錦三丁目 い ぼ しょう

いぼしょう

〒460-0003 名古屋市中区錦三丁目13番22号

TEL <052> 951-1166 番

営業時間 午前 11:00~午後 2:30

午後 4:00~午後 8:00

定休日 日曜日・第二・第三月曜日

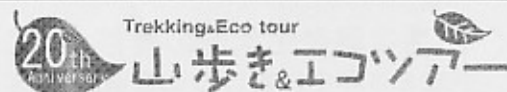
公官庁の許認可申請・権利義務・事実証明の書類作成

西山行政書士事務所

〒460-0002

名古屋市中区丸の内3丁目1523番地 大栄ビル204号室

TEL:052-961-6506 FAX:052-961-6507

URL: <http://www.nygs-office.com/>facebook: <http://www.facebook.com/nygs.office>

Trekking Eco tour

山歩き&エコツアー

海外トレッキング・国内登山ツアーの専門旅行会社

初心者からベテランまで…日帰りから海外登山…

年間総合カタログをご請求下さい。無料送付致します。

旅行企画・実施 観光庁長官登録旅行業第1366号/日本旅行業協会正会員

Amuse アミューストラベル株式会社

名古屋 TEL:052-588-5617 FAX:052-588-5618

〒450-0002 名古屋市中村区名駅4-17-14 鈴木ビル5F

ホームページ <http://www.amuse-travel.co.jp>

ALPINE ツアー サービス

海外トレッキング/世界の山旅 専門旅行会社

まずは「ツアーカタログ」ご請求下さい

個人&グループでのご利用お待ちしております

名古屋営業所 TEL:052-581-3211

〒450-0002 名古屋市中村区名駅3-23-6 第2千禧ビル8階

FAX:052-561-8338 E-mail:nagoya@alpine-tour.com

ホームページ <http://www.alpine-tour.com>

◆ 9・10月スケジュール

月日	内容
9.4	常任理事会(OMCビル)
9.9	第2回気象講習会(豊川高校)
9.11	県民登山説明会
9.21~23	中高年安全登山指導者講習会(石川県)
9.30~10.2	第67回国民体育大会(岐阜県)
10.2	常任理事会(OMCビル)
10.7	県民登山教室
10.9	第2回登山勉強会(東三)
10.14	第32回自然観察会(伊吹山)
10.16	第2回登山勉強会(県スポーツ会館)
10.20~21	救助技術講習会・研修会(南山)
10.28	第12回植生保護活動(鈴ヶ岳)